

## 相国寺は開封の町

相国寺(しょうこくじ) 開封で一番古い仏教寺院です。山号 萬年山相国承天禪寺 相国寺の歴史、菩提達磨が坐禅によって悟りを得るインドの禅を中国に伝えます。その中国禅を大成したのがこの六祖慧能です。臨済宗は唐の臨済義玄を開祖とする禅宗の一宗派。相国寺は、開封市の中心、自由路に位置する 555 年創建の著名な仏教寺院である。元は、建国寺と呼ばれていたが、唐の睿宗が高位につくことを記念し、名前を大相国寺に変えた。戦国時代に魏の公子だった信陵君の邸宅であったこの寺の現在の建物は、1766 年に再建されたものである。現存の建物は清の時代のもので天王殿、大雄宝殿、羅漢殿、藏経楼等の建物が残されている。羅漢殿の中では銀杏の大木で彫刻された千手千眼菩薩像があり、高さは7メートルぐらいで、四面像にはそっくりした顔付きには何とも言えない様な魅力的な微笑みで一番印象的な物である。1992 年以降、鐘楼、鼓楼などが新たに建築され、鐘楼内には中国を代表する大鐘として有名な、重さ万余斤におよぶ相国霜鐘が置かれている。北齊時代に初めて建てられ、北宋時代に皇帝様に「皇家寺院」として指定されたことがあるため、何回も拡張されたことがある。当時敷地面積は 33.35ヘクタールあって、64の禅、律の僧院に分けられ、僧人が千人以上いた。当時の都では最大の寺院として全国の仏教活動の中心でもあった。紀元804年頃に弘法大師が長安へ行く途中にこの寺院にも立ち寄り、留錫したことがあり、中日交流史においても記念すべきところの一つである。この事を記念して1992年日本の松山を中心に真言宗の信者達の寄付により、相国寺の境内にはでは大師堂が建設された。



大相国寺山門



大きな立派な鐘突き堂



大きな立派な太鼓堂



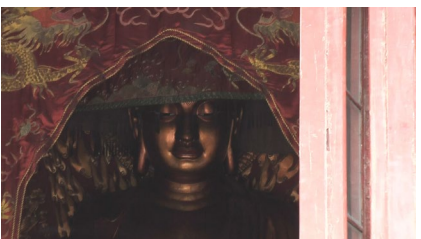
切妻造りの大きな大雄宝殿



大きな立派な山号額



大きな立派な釈迦像



釈迦像のお顔



大雄宝殿の左右には羅漢



大きな六角道



六角道内部には千手観音像



一番上には釈迦坐像



千手には目が有ります



四面千手観音像



四面千手観音像つなぎ目



羅漢殿



羅漢殿内部には立派なご厨子に正法久住 聖少女にも似た白玉仏



其の横には羅漢像



羅漢殿内部には大師堂に立派な山号額



弘法大師空海像



旅でお疲れの空海のお顔



弘法大師の生涯記



弘法大師の中国での修行記 弘法大師の中国での修行記の道のり

